

萩・海の学びトレインツアー実行委員会

萩市（萩博物館・須佐総合事務所・まちじゅう博物館推進課・シオパーク推進室・観光課）・萩市観光協会・萩セミナーハウス

萩・海の学びトレインツアー

実施期間：平成27年8月1日（土）～平成27年12月6日（土）



【事業の内容・目的】

- 「歴史の町」のイメージが強い山口県萩市において、市内に散在する海関係の素材と海辺を走る鉄道に着目し、列車で海をめぐる「海の鉄旅」という新しいコンセプトのツアーを市内外の親子（ファミリー層）を対象におこなうことにより、海を萩の新たな魅力として発見する機会を提供した。
- 親子が海の地質、生物、文化、食材などに自ら触れ、考え、謎を解き明かす機会を作ることで、今後も継続して海に関する様々な事象に関心を持って取り組む意欲と力を養う機会とした。
- 海に携わる様々な立場の人々と交流したり、地域の海の現状や課題に触れる機会を作ることで、海洋環境、生物多様性、海と関わる生活文化を未来に引き継ぐ重要性に気づいてもらうことを目的に実施した。

活動の様子

1. 萩・海の学びトレインツアー「ジオクルージングコース」

【開催日時】平成27年8月1日（土）10:00～17:00
8月22日（土）10:00～17:00

【開催場所】萩博物館～JR山陰本線～萩市須佐地域

【参加者数】92人（8/1：47人、8/22：45人）

【活動内容・目的】

- 萩の海岸に散在する岩礁・火山・島々などにまつわる風景や食材への見聞や体験を交えた特別列車の旅。
- 終着駅の須佐では、漁船による奇岩・洞門の遊覧や徒歩での「畳岩」探検をすることで、萩の海の特色や成り立ちを地質の面から親しみ学び、今後の自律的な海の地質への興味関心の発展を促す。



当日朝、萩博物館 講座室での萩市長挨拶



事前説明の後、一同で出発の気勢



1. 特別列車に乗って出発後、列車はいったん途中駅に停車。そこで地元漁協女性部による萩の海の幸のバイキングの提供。



2. 列車の終点・須佐駅からバスで「畳岩」へ。スタッフ扮する「大地の女神メグ」(右)の誘導で、まずは畳岩の地層の成り立ちを学ぶ実験。



3. 徒歩で「畳岩」へ接近。それぞれが思い思いに岩肌に手で触れたり、「大地の女神メグ」に質問しつつ交流。



4. 須佐港へ移動し、ツアー最大のハイライトとなるジオクルージングに挑戦。漁師さんが操舵する漁船で意気揚々と出航。



5. ジオクルージングの後半、漁船は絶壁にあいた海食洞へ突入。萩の海の神秘的な景観や岩肌などを見上げて感嘆。

【参加者の声】

- 海岸の地層、断層、岩石などの性質や形成過程をよく学ぶことができた。
- キャラクターが登場したり、クイズ、岩石をマンガ風に擬人化したりと、子どもが親しみやすく分かりやすい説明があったので、海のことをよく学ぶことができた。
- 遊覧船の船上から漂流ゴミがたくさん見えたので、海を守らなければならないと感じた。

2. 萩・海の学びトレインツアー「いきものウォッチングコース」

【開催日時】平成27年8月8日（土）10:00～17:00

8月29日（土）10:00～17:00

【開催場所】萩博物館～JR山陰本線～萩市須佐地域

【参加者数】96人（8/8：48人、8/29：48人）

【活動内容・目的】

- 萩の海にすむ魚貝類の種類や食材、車窓から見える海の下環境に関する見聞や体験を交えた特別列車の旅。
- 終着駅の須佐では、水中メガネや網を使って磯の生物の観察・採集をすることにより、萩の海を生物の面から親しみ学び、今後の興味の持続や環境保全意識の高揚を促す。



萩博物館 講座室での事前説明



出発前、萩博物館講座室にて大学生の補助スタッフが旅先の磯の生物の生息環境や採集方法を身ぶり手ぶりで実演解説。



1. 特別列車で出発後、途中駅で地元漁協女性部による萩の海の幸バイキング料理を容器に詰め、列車内で家族で会食しながら「鉄旅」を堪能。



2. 途中駅から補助スタッフ扮する「浦島太郎」が登場し乗車。車窓から見える海の中にすむ魚介類について、司会の「萩博之助」との掛け合いトークやクイズを交えて解説。



3. 終着の須佐駅から送迎バスで「深まてかたビーチ」へ。参加者はグループごとに海に親しみつつ、まずは水中メガネや網を使って磯の生物を思い思いに採集・観察。



4. 磯での後半タイムでは、グループごとに多くの種類の生物を網羅することを目的に採集。図鑑でしか見たことがなかったウニなどを発見し、苦労しつつも初めて自力で岩から取りはずして採集。



5. 磯での採集を終えて水洗い場へ上陸後、スタッフに質問しながら、採集した生物を真剣に観察したり分類。



6. 須佐での採集・観察を終え、萩博物館に帰還後、希望者はスタッフに飼育難易度を尋ねた上でもち帰りたい生物を選び、家で引き続き飼育・観察。

【参加者の声】

- 生物観察・採集により、さまざまな環境にいろいろな生物が生息していることを体感できた。
- スタッフやインストラクターによる補助や解説により、安全に楽しく海に触れることができた。
- 子どもだけまたは家族だけでは体験できない今回のような海に関する行事を今後も開催してほしい。

3. 萩・海の学びトレインツアー「熱帯魚ウォッチングコース」

【開催日時】平成27年10月11日（日）10:00～17:00

【開催場所】萩博物館～JR山陰本線～萩市須佐地域

【参加者数】39人

【活動内容・目的】

- 海にまつわる萩のローカルな自然の魅力と、秋ならではの海洋生物（「季節来遊魚」）に着目し、海の風景や海面下の環境、生物、食材への見聞や体験を交えた特別列車の旅。
- 終着駅の須佐では、現地を代表する海の絶景ポイント「高山」や「畳岩」の探訪、水中メガネや網を使った季節来遊魚の観察・採集をおこない、萩の海を風景・地質・生物などの面から総合的に楽しみ学び、今後の海への興味の持続や海洋環境を保全する意識の高揚を促す。



萩博物館 講座室での事前説明



1
す
か



2. 特別列車に乗って終点の須佐駅へ到着。まずはバスで海辺の高峰「高山」へ。頂上からの海の眺望を楽しみ海上交通の歴史に関する解説を受けた後、山頂にある「磁石石」の性質を磁石や磁針で実験。



3. 高山から須佐港近くの須佐漁村センターへバスで移動し、昼食は漁協女性部による「漁師のおかみさん手作り料理」。須佐名産のイカやサザエなどを家族ごとに堪能。



4. 須佐湾の一角へバスで移動し、いよいよツアーのメインの「季節来遊魚」探し。家族ごとに海に入り、水中メガネや網を使ってまずは思い思いに魚を搜索。



5. 魚を採集するのが予想以上に難しいことを知り苦戦する参加者へ、実行委員会スタッフ（左端）が「追い込み漁」を勧める。スタッフが構える大きめの網へ向かって参加者数人が小型網で追い込むと、さまざまな魚が入網。



6. 魚採集の後、スタッフが事前に近くで採集しておいたほかの「季節来遊魚」も展示公開。海流の影響により、身近な海に色とりどりの南方系の魚が来遊し定着していることを目の当たりにして感嘆。



7. 須佐での活動を終え、特別列車で再び萩へ。列車の車窓から見える美しい萩の海を鑑賞し、海が見える鉄橋の上などでは縦立ちになって絶景に感嘆しつつ写真撮影。

【参加者の声】

- 熱帯魚（「季節来遊魚」）が日本海の萩にいと知り驚くと共に、さまざまな魚採集を存分に楽しめた。
- 海辺の地層のでき方、湾などの地形と地域の歴史との関係を知ることができた。
- 漁師をはじめ地元の人々に触れて交流でき、手作りの魚貝類にも満足した。

4. 萩・海の学びトレインツアー「貝殻コレクションコース」

【開催日時】平成27年12月6日（日）10:00～17:30

【開催場所】厚狭駅～JR美祢線・山陰本線～萩博物館～萩市倉江浜

【参加者数】41人

【活動内容・目的】

- 山口県の海の貝をテーマに、美祢市歴史民俗資料館との連携で鉄道沿線に眠る大昔の貝から現代の海に生息する貝についての見聞や体験を交えた特別列車の旅。
- 終着駅の萩では、萩博物館で貝殻採集の秘訣を伝授した後、浜辺で実際に貝殻採集をおこなうことで郷土の海を貝殻コレクションを通じて親しみ学び、興味の発展や環境保全への意識の高揚を促す。



萩博物館 講座室での受付
(厚狭駅から列車で到着後)



萩博物館 講座室での貝殻採集の事前説明



1. 厚狭駅から特別列車で萩へ到着後、バスで萩博物館へ移動。ここで、まずは萩名物の料理（萩近海産カマスのフライ定食ほか）の昼食。



2. 昼食後、「鉄旅」らしく鉄道員に扮したスタッフがスクリーンを使って萩近海の貝類の多様性、海流など環境との関係、採集方法の秘訣などを紹介。



3. 萩博物館から近くの倉江浜へバスで移動。冬の海を前に、家族ごとに思い思いに浜辺へ散らばり貝殻採集を開始。



4. 貝殻採集中、スタッフ数名が巡回。随時、貝殻が多く漂着している場所を案内したり、採集したての貝の名前や特徴を伝授。海ゴミの多さに驚く参加者に、風や海流で海外のゴミが漂着している現状を説明。



5. 浜辺での採集を終え、萩から厚狭駅へ戻る復路の特別列車内。先ほど採集した貝殻を、まずは家族ごとに自力で分類。



6. 自力で分類した結果を、スタッフが電子図鑑などを使いながら確認。珍しい貝を多く採集した参加者順に貝のクリスマスプレゼントを贈呈。その後、貝殻コレクションの管理方法や今後の自発的な継続方法などを説明。

【参加者の声】

- 列車が進むにつれて段階的に大昔から現在の貝や海の話を知ることができ、印象に残った。
- 身近な海にタカラガイなど暖流系の貝がたくさんいることを知ることができ、いろいろな貝の種類の見分け方を学ぶことができた。
- 浜辺に発泡スチロールや注射器などのゴミが漂着しており、海を守らなければならないと感じた。

【事業全体のまとめ】

- テーマに関連したキャラクターが登場し、トークやクイズを繰り出すことによってツアーをエンターテインメント化し、海への関心を高め能動的に楽しみ学び、今後の自律的な興味の発展につなげる。
- 本事業の成功により、折しも「日本ジオパーク」への登録を推進しつつある萩市において、これまで総花的な地域観光を担っていた須佐湾遊覧船を親子が楽しみ学べる「ジオクルージング」に特化し発展させていこうという機運が生まれた。
- 萩市は日本海沿岸有数の海洋生物多様性の高い場所でありながら、市内外の親子が集って観察できる場所や機会、対応できる体制がなかった。それを本事業が開拓しシステム化したことにより、今後これを雛型として市内でさまざまな生物観察イベントが生まれる道筋ができた。
- 本事業により、市内外の親子が秋の萩を舞台に観光と科学の両方を楽しむモデルケースができたと共に需要が開拓された。今後これを雛型にさまざまな科学系観光行事が生まれる素地ができた。
- 萩博物館では過去にも貝殻に関する行事を開催したことがあったが、本事業で始めて他館と連携し鉄道や車内イベントを組み合わせることでエンターテインメント化した結果、応募数・参加数とも過去最多の人気行事となった。将来に向けて同様のイベントを発展させていく素地ができた。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 萩市須佐総合事務所	列車の目的地となる須佐におけるアクティビティ全般の受入れ、準備、緊急時の対応
2. 萩市企画政策課ジオパーク推進室	列車内での地形・地質関係の動機づけ、目的地・須佐での地質関係の現地指導、情報伝達
3. 萩市まちじゅう博物館推進課	「まちじゅう博物館コース」の中止により見送り
4. 萩市観光課	県内外在住者の視点に基づく本事業の魅力の創出、募集情報の伝達
5. 萩市観光協会	海の幸バイキングを実現するための漁協との調整、県内外在住者への募集情報の伝達
6. 萩セミナーハウス	現地での参加者の誘導、交流、エンターテインメント

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 山口新聞	首長の動静「萩・海の学びトレインツアー出発式」 平成27年8月1日
2. 山口新聞	「萩の海 勉強の“旅” 須佐湾へ親子列車ツアー」 平成27年8月2日
3. NHK 山口放送局	やまぐちニュース「海のトレインツアー」 平成27年8月29日
4. KRY 山口放送	ニュースライブ「萩・海の学びトレインツアー」 平成27年10月12日

以上